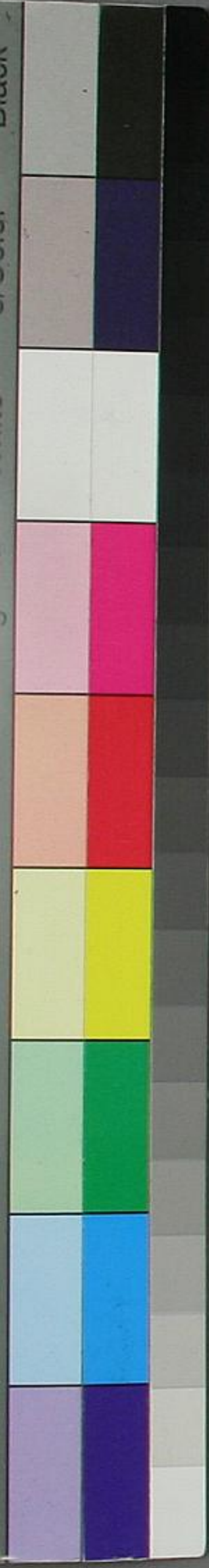


本草綱目詳說  
十九

二十七  
二十九

奴
997
19





本羣個目禽部  
禽之一  
目録第四十七卷  
水禽類二十三種



負狗	鷗	鴻鵠	鳥	鵠	鶉	鶉	鶉	鶉
<small>翡翠附</small>			<small>即野鴨</small>	<small>即天鵝</small>			<small>即海鶉</small>	

蚊母鳥	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣	鴉	鴉	鴉	鴉	鴉
		<small>旋目方目附</small>						

鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣	鷓鴣
							<small>鷓鴣附</small>	



本草綱目得記禽部卷四十七卷

南山小野生鳥以校 門人 因田藤 業友

禽之一 水禽類 二十三種

鶴 ツル 丹頂

今画ニアルトコロノ仙鶴之仙人乗トエロノモノ是之體身  
白毛頂赤頸長喉ヨリ胸ニ至テ黒ニ尾端微黒ニ  
アリ今林ニ死放フトコロノモノ是之京師四辺ニ純テ  
産セズ佗列ニハタマアル処ニマリト云此物食用ニ充ス  
食用ニ充ツルモノハ鶴鷄之一種全身黒マ頂赤アリ  
杉前ニアリ集解ノ玄鶴コレニ凡鶴ハ皆卵生ニ云  
胎生ト云モノハ大ニ非ニ



肉細目。祝及サズ五福全書ヲ梅ハニ肉ノ主トシテ祝  
之祝細目所載ノ白鶴血。同ノ日食方物曰白鶴  
味鹹平有毒益氣力去風神肺弱病宜食  
之頂血大毒其脈之脈死吳氏食物本草曰血益  
人氣力肉味鹹性平無毒益氣力而去風  
補勞乏而益肺。存經逢原曰鶴頂辛溫大毒  
鶴食蛇虺而頂血大毒力能殺人人之欲求自益  
者服之而斃而嘉祐又以鶴血益氣力補虛  
受去風益肺必未必能

脫中砂石子

鶴

コウツク コウコウイリ クロヒ  
クチナハクヒ  
ノ有器アリ

氣味山中氏  
作風症

鶴

京師通道ニクシク幡辺ノ山中最多シ。鶴ニ似テ似ク  
小頸丹カラス胸黒カラスノ尾黒ク短シ白毛ノモノ  
アリ黒毛ノモノアリ高木ニ巢ヲ結ス肉味酸シ食用ニ  
ハ良ナラス。其氏食物本草曰肉味酸平無毒  
有三毒疾者宜病者宜食多食令瘡疥  
此條ニ細目ニ肉ノ三毒味ヲ缺

鶴ニ似タリ頂丹カラス類赤シ灰色ノ青毛ヲ有ス  
味青シ滑リ西國ニクシク又江戸ニアルモノハ灰色ノ青  
ニナシ集解有灰毛者ト是之共ニ食用ニ宜シ又一種ハ毛  
アリ又白鶴ハ食用ニ不可ナリ



雁亦名陽鳥  
見事物異名  
于此曰名之物

陽鳥

キスカツキ

附録 鶴 鳥

又原陽雜俎ノ鶴鳥ノ風鳥ノ一特珍引トコロニ種之ヲ候也三物曰

玄鶴ノ一種ニ全身黒ク頸赤シ頸長ク白ク喙黒  
ノ脚赤ク色鶴鳥ヨリ小シ食用ニハ玄鶴ヲ上品  
トス鶴鳥之次バ陽鳥モ亦上品ニ西國東國共  
アリ京師近道ニ之アルヲ見ス

鶴 秋鳥 オホトリ

水鳥ニクニシク海濱ニ来ルヲアリ備前因山海辺ニ  
百間川ト云川アリ先年ニテ来レリ為サハ尺許  
形鶴ノ如シ灰色ノ才色ヲ帯フ鳴声ホウノト云

故ニ土人ホウゴラウト称ス多トコロニ居ルヲ又ニ日  
メ後去ル又肥後ニモ来レテアリ京師ニ條街ノ京肆  
ニ首ヲ所持スルモノアリ鶴首ニ似テ毛ナリ大ナル  
首ナリ

鰐 鱧

和産ナシ云國ヨリ頭骨ヲ来ス用テ器ニ作レ傳俗  
之ヲ鳳頂ト云頂或作頸白色ノ瑪瑙ノ如シ一方ニ赤圈ア  
リニ方赤圈ノモノ稀ニアリ之ヲ両スコレ云テ上品ト  
ス用テ簪禁子ニ作ル近來紅毛人此鳥ヲ持来リシ  
コアリ鶴ニ似タルモノニ

鶺鴒 レントキヤウ



大鳥ニカラシキヤウト呼ヒ又コシカラチヤウト稱ノ觀、  
場ニ供セシモノ足ニ形大抵我鳥ニ似テ大之頸下ニ  
アリ數升ヲ容ル眼小水ヲカヘ竭ノ爲大ヲ捕フ故ニ洵  
河ノ名アリ洵河ハ河サラエノ一之屯小水ヲ竭ノ足怪  
ムヘシ。古ヨリ鴉ノ字ヲウト訓スル非之ウハ鸛鶴ニ  
等ニ鴉ト云モ乃本條ノ下ニ

**信天謀**

信天謀 へテサキト云モ一之鷲ノ類ニメ嘴扁シ  
アホウドリト云モナリ大倭本サニヲイト訓スコノ鳥  
水降ニ立テ臭ノ流レ来テ俟テ  
取食フ故ニアホウトリト云

我鳥・クウロン オホカリ

江戸ニ多シ本倭後ニ漸ニ卵ヲ生ノ今ニテハ多クアリ  
形家鴉ノ如ク大ニ脚短ク頸長シ喙ノ本ニ黄クナ

コブアリ。志白我鳥タタシ白我鳥ハ純白ニノ嘴脚蒼色ニ  
此鳥ヲ捕テ器物ノ内ニ入レハ形々器ノ状ニ從テ方  
圓曲直ヲ為スト云 牡牡闘フ故ニ闘我鳥ノ下アリ典  
藉便覽曰玄性迫之翕前抑之翕仰故云頑而  
傲 八洲通志曰我鳥能鴉亦能却蛇蓋玄  
春無社殺蛇爲人困池食我鳥蛇遠去詩

**佳不解**

佳不解 伏卵  
クニゴチアメナリト云

鷹

和傳通名 カリ 二年トリ 奇古  
鷹ハヒシリヒ鷹ヨリ大メ腹ニ斑文アリ後灰色ニ鷹ハ  
小ニシテ腹ニ黑白ノ斑アリ一種白鷹アリ晴行詠



スルモノ是之小ニノ白リ鴈ヨリ早ク来ル尾張相模  
及北國ニククシ赤脚ニ似テ来ラス本特珍集解  
今人以白而小者為雁ト云モノ此白雁ヲ指シ又カリ  
カ子アリ雁ヨリ小ニ而臉黄色腹斑アリ左歎カリ  
カ子ヲ誅スルモノハ鴈カ音ト云ニ意ニ必シモ此一種  
小ナルモノヲ指シアラズ

**集解** 野菴 未詳

鴈 肪 アブヲ

鵠 ハクニヤウ

鴈ニ似テ大ニ白色長頸喙ト脚ト黒色食用ニ其  
鵠江産ニ産スト云鵠ヲクビト訓スルハ非ニクビハ

鵠之已ニ上ニ見エタリ

**佳下解** 天竺紙 ヒロウトノ一ニ善ホニテハ鵠ニテヒロウトヲ  
チル 文小全頭鵠 共未詳

鴨 ハカン

是ハ水禽ニ非ス陸棲ムモノニ形鴈ニ似タルモノニ  
茶褐色ニシテ黒斑アリ首長ク尾短ク喙ハ雞ニ  
似テ大ニ脚ニ雞ニ似テ共ニ黒ニシテ後指ナリ  
水カキナレクク鮮亮ニ列ヲナス肉脂多ク味美  
ナリ勝ハ具クノ地エベカラズ本特珍鴨水鳥ニト  
云モノハ誤ニ

鴈

アヒロ 足ヒロシト アヒル エンテ 雁名  
云フニ意ナリ  
鳧ニ似テ人ニ承膏ヲモノ是之故ニ承鳧ノ名アリ



品類多シ南齊朝鮮何南紀ノ種アリ雄ニ録頭  
ノモノアリ又洛陽嶺城ノ火匠ト称スル池ニ多ク  
群リ居ルモノハ人家ニ言ハサレ稱爲之秋名ノ鴨ヲ古  
ヨリ撰テカモト訓ス非之乃アヒル之一名家鴨又  
野鴨ト云ヘハ雉ノ下ニ  
臍衣 胃ノ皮ニ

鳧

カモ インテヘツテ紅毛

山野ニアリテ人家ニ高ハズ集解ニ録頭名鳥上ト  
コレアヲクビ之又カモニ云日本ニテモ之ヲ貴ラ又  
尾尖者欵之ト是コカモニクカヘ一名オナカモ  
云云古他品類多シ然レモ中華ニテ品類ヲ別テ先

モノモリ之有テ聞カズ大和春竹多ク品類ヲ挙テ  
詳ニス居リハ傳名未詳

集解

海中一種冠鳥是テアレカモト云鳥ノ中

ニ一種冠毛ノ尾毛ノ一灰色ト青色トノ斑アルモ  
長クアトヘアサリテアリ又正字通ニハ冠作冠然ル  
トキハコカモノトナル冠ハモノ、数々多ク佳ナリ成ニナ  
ル下チ冠ト云コカモハ多クアツル故之是ニ一説ナレモ  
未穩ナラス

鴈

カイツアリ 二ホ 古名ニヨ 鳥類ツアリコ備後

イツナヤウツアリ所外ニホノトリ傳歌  
池沃ニタシ脚ハ尾ニ近ク陸行スルヲ能ハズ大ニ鴈ニ



此スルニ甚小必雌雄ニ居ルモノノ際ノ中ニ巢ヲ作ル  
或云鳥ノオチアリテ食用ハ不可ノ痔疾ヲ療スル如ク  
リ調理法ヲ得テ可ト云

**初名**カ鴨 コガモニ季特珍此列スルモノハ誤ナリ  
今韓保昇ノ説ニ從ヒ之ノテコガモトス

鴛鴦 アカハシラ

鳥ノ類ニメ徳名皆黄色首赤ク脊ノ下ニ藍色尾  
ノ羽ノ先黒シ思ヒ羽ナシ時古ヨリナレドリト訓スルハ  
誤ニナレトリハ次下ニ奉條アリ

鶺鴒 キシトリ キシ

池ニ畜フ鳥ニ洛西龍安寺ニクニ大ニ矮雞ノ如ク

如銀香美

色雞ノカシハノ如シ首ニ青キ冠モ有テ後ニ垂ル一灰  
色ニメ垂ルハモアリ腹白ク胸紫背カキ色嘴桃紅  
色脇白ト黒トノ胡麻斑アリ羽黒クノ羽ノ先アリ  
羽ノ末ニ思ヒ羽アリ黄赤色ニメ先微ク黒ニアリ碧色  
ノ先ニ文彩アリ極美麗ナル鳥ニ唯雄コノニ此羽ア  
リ雌ニハ此羽ナシ皆水カキアリ

鷓鴣 ハシ 梅首雞 初名ニハシ

大小二種アリ此ハ小ハシナリ鳥ヨリ小黒クメ青碧色  
先リアリ足クナハシ色ニメ長ク水カキナシ喙長ク頭上ニ  
肉冠アリ初青ク老テ赤ク変ス才夏月食用ニ宜シ

**附録** 旋目 煩悩サキ ヨシ五位 五位サキノ如ク産中ニ居ル故ニ名ノ



青サキニ似テ小シ葭葦等中ニ居ル目陷カ之臉毛長ク回  
旋ス此類尾極短シ

方目 大ハシ

小ハシヨリ大ニ首白クサカヤキヲ剃タルカ如クモ短  
シ之ヲ白肉冠ト云水カキアリ色青黒シ喙淡紅  
色

鷺

サキ シラサキ

品類大倭本有年ニ詳ニ相降ノサレニ能ク飛フ首ニ  
白長毛アリ之ヲニノモト云 鶯逆ノモノヲ小サキト云  
形小ク脚黄褐色又形大ニノ脚黒キヲシメメクリト云  
又カラリサキト云又脊黒キモノヲセウロサキト云 柿

脚ノ黄黒ハ子  
ト視トノ異ト  
見ユ

ナルモノ之頭ヨリ胸ニ至テ褐色羽ト腹白ク足黄ニ喙黒

黒色又江列廻ニアホキト云アリ形コサキニ同ノ喉ヨ

リ頭ニ至テアカリ頭長シ後ハ白ニ変ス

**集解** 汪頴曰似鷺而頭無絲脚黄褐色者名一

白鶴子コレ大サキニ下ニ詳ニス又曰経鶴云

去朱路是世詩コレトキナリ又タウノトリ又タウハ

ン又江列ニテハナリタト云奥列南都ニテクヲト云

クニアリ形鷺ノ如ク大ニ飛トキ羽裏トキ色外灰

白色此羽ヲ矢ニ用ニ本ナ特珍曰郭景純云可為

曉羅一ノ頭巾ナリ

鷓

カモノ 子コサキ 筑後



水辺ニクダレ大サ鵞ノ如シメ喙尖ル尾ナシ白色ニシテ  
灰色ヲ帯フ又白トモアリ庭中ニ畜フニハコモノヲ食  
ハシムレハ社馴ルモノ之自宿スルヲ和ラズ人之ヲ捕  
テ罅ニ入ルナリ一種海中栖テ海鷗ト云集解ニ  
海中一種隨剛往來謂之信鳥ト是之和名ウミ  
カモノ又名コフ佐後又名シホコヒトリ伊蘇ヨリ傳  
大ニ羽茶褐色漸来ルトキ必群飛テ其時必鳴  
其声コフクト云潮ヲ呼フ声ト云

鸚鵡

踏馬ノ類ニシテ大ニ頸ニ絲ナシ脚黒シ喙赤ハ黒シハ  
赤色花所ニ特希ヨリテ其色ナリナリ食用

ニス京師ニハ少シ奥列辺ニクダレ

鸚鵡

水中ニ在テ社鳥ヲ捕フ黒色ノ鳥ニ美濃辺ニテ  
ウ飼ト云テ鸚鵡ヲ畜フテ鳥ヲ取レム古ヨリ  
サウト訓ス非之已ニ上ニ辨ス一種白斑ノモノヲ云  
ウト云陳藏器云トコロノ鳥紋是ニ

鸚鵡 未詳

蜀水花 ウノアシ

真狗

河ニヤウビシク保カハセビセミ科ノナシ  
水鳥ニノ河辺ノ閑ナル處ニアリ水上ニ花テ食



空翅取ハ大雀ノ如シ尾短シ喙赤ク且シ脚赤ク腹ニ  
赤シ身及ヒ羽碧緑色色最ニ美シ

**附録** 翡翠山ニヤウロ 山ニヤウロニ 山ニヤウロニ

ニ 山セミ ヒソコイ 五位サキノ中ニミソコイ  
ト云アリ此ト名 赤ヒスイ

溪間水ノ辺ニアリ魚ノ似テ大ニヒヨトリノ如シ  
全身赤色ニメ光リアリ腹赤ク喙赤ク長シ脚ニ  
赤ク尾短シ

蚊母鳥 和産未詳

大和存者 カワコトリトス非之又ツ、トリトテ在  
非ナリ

本草譯記四十七巻 終

本草綱目禽部目錄第四十八卷

禽之二 原禽類二十三種

雞 雉 鸚 鵪 雉

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣

鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣 鷓鴣



本草釋名禽部第四十八卷

爾雅七野以名之 門人 石田熙 筆文

禽之二 原禽類二十三種

雞

ヤコエノトリ 古名 カケ日上ニハツトリ トコヨハトリ ニニ傷  
ハニトリ 今名

家ニカヒ食用トスルハ家雞之伊指物也。家雞ヲ  
クダカケト訓スカケハ所古名之。又ヤリニタハス醜  
フ一モナラヌ雞ヲ系雞ト云。花雞ヲ見レハ名ヲ  
逃リ。又大ニ強リ能闘フモノヲニヤムト云。所闘雞之  
又至テ大ナルヲトウニルト云。所闘雞之蜀 蜀名ト云。儂  
雞 儂ト云 皆曰シ。至テ小ナルヲチヤホト云。又地



スリ云々雉之又鳥骨雉ハ羽色細ノ自シムクイヌ  
ノ如シ冠紫也ノカラス赤生ス此脚元ニ黒シ  
常用ニス

雉

キ、ス、ヨ、ト、リ、雉、キ、レ、フ、ス、ル、チ、レ、ト、ロ、ヒ、ヒ  
山野ニ多ク人ニ迫ツカス子カヒニスルニ馴レモ長スレハ  
去ル雄ハ短キ冠アリ時ニ出没ス出ルトキハ耳ノト  
コロニ赤キトエロ去ルニ雌ハ尾短ク雄ハ尾長シ奥列  
玉造礫岩圍出山ノ雉ハ形小ニハ鶴ノ如シ形色ニ  
ニ同シ玉ツクリ雉ト云テ名産ニ食用之ヲ上品トス  
白雉ハ瑞物ト云ヘモクソクアルモノ

鶺鴒

ヤニトリ

形雉ニ能似タリ長尾アリ全躰蒼色ニ赤黒ノ斑  
アリ頸ニ冠アリ尾至テ長ク雉ノ如シ雉雉ヨリテ  
粗キリ糸褐也ニテ黒斑十二アリ十三アルモノハ俗  
人ノ魅ニト云此尾ヲ采リテ矢ニハク神道ノヒキメ又ハ  
征矢ノリヘ羽トスルヲアリ

鶺鴒

金雞 通名

モト舶来ニ今ハ日本ニテ卵ヲ生メタリアリ雉ノ類ニ  
毛彩美麗ナルヲ云ヘカラス首ヨリ頸ニ至リ黄赤相  
下黄赤ニテ黒斑文アリ炫耀ノ甚美ニ腹赤色  
尻形雉ノ如クニ長シエニ出ルモノハ黒褐也ニ後褐也  
ノ斑文アリ今文同シ尾ノ裏ハ朱色ニ首所ハ黄



色背黒ノ緑色羽ハ爪キリ黒ノ褐色ノ斑文アリ亦口  
ノ色赤殻色ノ黒文アリ

附録 吐綾雞

和名ナシ 古画ニ之アリ 洛北大徳寺ニ古法眼  
画アリ 前日夕朝鮮ヨリ長崎ニ將來シテアリ 大サ  
家雞ノ如シ 黒クシテ 黄白ノ斑點アリ 天精明ナル  
トキ 咽ノ下ヨリ 又色ノ赤ヲ 出ス 李特珍記ノ如シ  
膺ニ 絲色ニ 朱色ノ 斑點アリ 脚ハ 赤シ 後ヲ 出ス  
雄ニ 雌ハ 後ヲ 出サス

鶺鴒

未詳

白鷗

カノコドリ

倭名アリテ 倭名ナシ 古ハ 後リタルトアリ 嶺南鳥  
ナリ 北方ニ 居ラス 雄類ニ 全身白色ニ 黒斑アリ  
斑細ナリ 李特珍曰 有黒文如 連珠ト 此形ニ 家リ  
テ 山茶 茶梅 花杜鵑 花トトノ 雜色ノモノヲ 稱メ  
白鷗ト云 此鳥 形類ニ 似テ 尾長シ 雌ハ 白色ニ 朱色  
ト 黒色 相雜ル 雄ハ 冠アリ 嘴赤シ 鳴声 木突ヲ  
叩音ノ 如シ 廣東 雜記ニ 形状ヲ 記ク 詳ニ 鳴声 瓦  
ヲ 隔テ 聞ク 如シト云 又 白鷗ニ 瑞物ト 雜記 廣東  
新語ニ 白鷗ハ 白鷗ト云 廣東 新語曰 白鷗者  
而 越羽 族之 珍乃 白鷗ニ 周武王 特越 裳貢 白鷗  
建武 中南 越 徵外 蠻 獻 白鷗 唐肅宗 特日 南



鷓鴣

徵外重寃不事人歃白雉皆白鷓之

倭產ヤシ画ニ之アリ古ハ渡リタルヲアリ  
ニ似タル鳥ニ茶褐色ニメ白班アリ首ハ鷓ノ如シ  
山嶺南ノ產ニ故ニ廣東新語ニ形狀ヲ記シ詳ニ天  
冥ニケレハ絶テ鳴カス暖年ナレハ鳴リ廣東新語  
曰花奴必隨月正月一飛而止十二月則十二飛而止  
山中入輒以手飛而計月人問何月矣則云鷓鴣  
飛飛ニ夫早暮有聲相ノ如列不飛飛必啣木葉以  
自散ニ相ニ涉微石活々背声為之啞故性絶畏  
人相ニ涉

竹雞

ムハシキ ヤシキ シハシキ アナシキ  
レキノ如クニシキ品類多シ之中ノ一種ニ鷓ヨリ小ニ  
形雞ノ如ク尾短シ尾下解ニ尾ト云ニハ短ヲ云ニ  
嘴長シ凡鷓類ハ嘴嘴長シ竹雞ハ羽ト背ト褐色ニ  
メ黒斑アリ食用ニス

附錄

杉雞 未詳

大明一統志ニ杉雞ト云ハライトリノ下ニ加列白山  
センシヤウヲト云杉樹アリ短ノ塌スニ叢中ニ居鳥ニ

英雞

未詳

秧雞

一名

水雞

河間府志

ク井ナ

水雞

日本記ニ和洋通名

雞ノ雛ノ長シクハ形ノ如シ脹胃赤色脚ニ赤シ雞ノ



タチ之故ニ水雞ノ名アリニ種アリ子スミク井ナリル  
ク井ナト云テ別ツ子ツミク井ナハ色茶褐也シノ黒  
斑アリ形小シ人ヲ見レハ乍ラカリル故ニ子スミク井ナト  
云又ツルク井ナハ形大ナルヲ云之ヲ大ク井ナト云夏竹  
林中ニ鳴ク声ヲ叩ク音ノ如シ多ク夜鳴ク又屋ニ  
鳴ク

鶉

雀 一種鶉雞ニ通稱以同一物トス是ニ  
ウツラ

形巨大ニ首小ニ大ク雞雛ノ如シ尾至テ短シ全身  
茶褐色ト黒色ト白色トノ雜色ニウツラノフト云  
テ定リタルモノ之秋多ク来高脚ハ雄之短脚ハ雌之

多ク夜鳴ク晨ニ鳴ク雄ハ声高シ寒ヲ畏ル三四  
月頃麥タ長シタルトキニ取ラムキトリト云冬取ルヲ  
言トリト云多ク雛ヨリ養テ去鳴ヲ聴テ養ス

鶉

フナレウツフ

鶉ノ斑ナキモノ形状鶉ニ同シを鶉ノ種類ニ古来  
ホトシキヲ以テ之ニ充ツ未的者ホトシキハ鶉ノ  
種類ニ次下ニ詳ニス

鶉

ニキ

鶉ヲニキト訓スルハ右記ニ林道ヲ多ク識者ニ  
ニキト訓スルニキ品類多ク凡テニキノ類ハ嘴長シ  
身細ノ脚長シ嘴脚ニ黒色哲褐色尾白尾



端黑ニ水辺ニ多居ニ味美ナラズ考ニ虫ヲ取リ食フ故  
 ナリ足オシロキト云モノニ尾白キ斑名ク此形状を  
 條的者ス一種ハニケラニキアリ又ホトニキアリ  
 一名カヤク、リ一名カヤリキ、又ムナケロニキアリ又系  
 女ニキアリ、又ハニナカニキアリ、又ノタイニキアリ  
 又黄足ニキアリ、又ニヤリニキアリ、是種類ノ中ニテ  
 大ナルモノニ鳥ノ大カノ如シ、又山ニキアリ、又ムハニキ  
 ノフニメ竹雞ニ、又ウスバミトウ子ゴクヒダニキ  
 數種アリ、大和在竹、見エタリ、凡ニキ品類多ト  
 雖ニ鶉ノ字ヲ通シ用テ可シ然レモ仔細論スルトキ  
 ハ尾白キ能的者ス

鶉

ハトハトハトタウハトカヒハト

本條ハ家鶉ニ又野鶉アリ、任不解、見タリ、是ハ家  
 ニ高ハサルモノニ、廣東新語曰鶉之大者曰地白  
 廣州人稱鶉曰白鶉、不曰鶉、地白、推行地不  
 能、天飛、故曰地白、中書ニテハ書ニ、家鶉者、地白、者、  
 鶉ヲ載ス、八國通志曰、諺謂十鶉不如一鶉、言其  
 也、性、是、馴、善、認、主人、之、居、船、人、竹、籠、以、泛、海、有、故、則  
 數、共、者、政、之、還、家、故、又、曰、船、鶉

突厥雀

志祥

稿生若水ハニコト云、鶉ヲ以テ之、亮ツ、是ハ陳藏  
 器ハ、記、扶、如、雀、ト、云、存、キ、タ、ル、モノ、ニ、本、十、特、珍、ノ、記

今本同物ニ今  
 寺院神祠寺  
 ノ境内ニ多居  
 云ノ是ニ



松レハ大ナル鳥之故ニ的音ナラストスニレコハ秋後ル鳥  
ナリニ種アリ羽黒色ノ多キヲサルニレコト云テ下品ト  
シ赤色ノ多キヲベニレコト云上品トス

雀

釋名注曰俗呼老而斑者為麻雀小而黃白者為  
黃雀ト是長スレハ胡ノ斑文分州之故ニ之ヲ麻雀  
ト云卯虫ノ未好月ニハ吻黄色ニ之ヲ黃雀ト云ニ  
種入内ス、メト云アリ俗誤テメウナイス、メト云此  
雀ハ有言方中将巢列配所ニ是鳥不存ニ禁庭  
還ラント云ニ意アリ雀ニ他ノ殿上ノ大盤ノ飯ヲ浴ニ  
来ルト云ヘリ背毛黄色ニ青色ヲ帯フ者通ノ

モノヨリ稍小星ニ黄雀ト云浙江通志李子特珍曰又有  
白雀緯書以為瑞應所感ト和名シカス、ノ雀ノ  
間ニアリ全身白色ニ或ハ唯頸ノミ白キモアリ、之  
瑞應ト云モノハ怪キ説ニ全船白班アルモアリ尾白キ  
モアリ皆黄生ニ又近來ハニスノアリ諸別ニ譯名  
ナレ、雀卵ヲ和方書ニ雀カイト云、雀糞ヲ白丁  
香ト云

蒿雀

アチシ アフレト、  
ホシロホアロクワシロシラノレロ  
ニ類ヲ徳テレト、ト云眼ノ辺ニ白キ輪  
アリ今ノカノレト、メト云ハレト、ノ目ト  
云アリナリホロレ以下ノ諸名別ニ譯名ナレ  
アチシ大ナ雀ノ如シ赤褐色ニ緑色ヲ帯フ黒斑文  
アリ和方ニタクク用ユ血トノ及ニ眼赤ニ用ユ羽ト腸トヲ



去リ焼灰ニ用ユ

巧婦鳥

ミソサ、イ、ミソサニサ、イ、ミソバへサ、キ

古名  
日本記

至テ小鳥之大サ一寸斜羽ツカヒ是疾シ鷹ノ如シト云ヘ  
リ名ノ斑モ鷹ノ班ノ如シ尾ニハシト云テ啼トキ尾ヲ開  
テ孔雀ノ如キミノナリ是上品之冬月溝渠ニ来リ虫ニ  
ヲ食ス人家ニ寄リテ寒暑有テ是也鳥名鳴声也田  
高シウリヒスノナ声似メリ、李特珍曰又一種  
鳴鶴尔雅謂之割蓬 是亦條ト別之和名ヨレハ  
又、ノ一名ヲケラ一名ヨレキリ一名キカクシ鳴声ニ因テ  
名ヲ命ス  
雀ヨリ大之色ウグヒスニ似タリ腹下白ク尾長シ伏  
見迎ニクダ居ル葭ノ中ニ居ル故ヨレハラス、ノト云

燕

ツバメ ツバクラ ツバク口

翅黒シ  
斑ニ名リ

李特珍曰春社来秋社去此説ノ如クオキ月ノ社日  
ヨリ市中ニ来リ人家ニ巢ヲ結ニ子ヲ生ス秋月ノ社  
日ニ至テ帰ルニ種アリ市中ニ巢ヲ結フモノハ小ニ  
服白色ニ胸紫色ニ俗之ヲツバメト云陶弘景  
説トコロノ越燕是也又堂舎ノ椽間ニ土ヲ以テ窠ヲ  
結フモノハ大ニ胸紫色ナラスヒハリノ如ク黄赤色ノ  
斑文アリ尾黒シ雨前ニ必群飛ス和名大ツバメ一名  
山ツバメ一名クワツバメ一名アマツバメ又アナリツバ  
メ等ノ諸名アリ陶氏説トコロノ胡燕是之徳ラニ  
ヲ畏ル故ニオキ月ヨリ北地ヲ去秋月ヨリ南方煖國ニ



渡り冬月。至テ琉球國ニクダ来ルト云中山傳信録月  
今日七月玄鳥来註曰燕至此月始来又物産曰  
燕七月来不巢人屋。此説。按テ考レハ李時珍以  
テ伏鳥ヲ燕ニシテ穴之中ト為テ或説ノ後海鳥ヲ  
駁スルハ反テ誤之或説ヲ是トスヘシ

石燕 未詳

大抵蝙蝠類ノ燕也。非ス 石部ノ石燕ニ自列シ  
此ト曰也

伏翼 カウモリ

鼠。似テ肉翅アリ者。訛飛ス冬月ハ鳴ク。夏月ハ  
鳴カス。此ノ鼠ヲ采リテ。夏月ニス天鼠屎トシテ  
個同ニ詳シ

田鼠 ムサビ 七、ガ江戸モ、クハ、フバヲモキ、ノフス、  
ハントリ モミ

深山中ニ多居ル状。大抵蝙蝠ニ似テ大之前二足指ナ  
クメ曲リタル釣ヲ如キモノアリ。後二足ハ五指アリ。首鼠首  
ノ如シテ大ニ全身赤黒色。前足ノ臂ヨリ後足ノ脊  
ニ至ルニテ肉翅アリ。肩木ニ登リテ倒ニ掛ル。夜ニ至テ  
飛行ス。融高ヨリ下ニトル。下ヨリ舌ヨリ上ニテ能ハズ  
好テ耳ヲ諸ヲ食フ。舌汁ヲ吸テ。停ヲ吐ス。

冥、競 未詳

六、國ニ居ルモノト見エ。屎ハ硬。五、蓋脂ニ似テ。ナレ業  
肆ニ住ルモノハ皆。薄皮ニ在。偽物多シ。古後ノモノハ



肉色ノ光リアリ上品ニ本特珍曰飽心潤得ト是之  
 新後ハ外光アリテ上品ノ如クナレバ内光得也  
 光リナリ全ク塵土ナリ此鳥其月毛成メ冬月至テ  
 毛落ッ物理小識曰十月毛落而寒號思凍冬  
 雁拍空食之又自食之遺遺而復食故云  
 矢為五吳脂此來譬所未詳者

本草綱目禽部目錄四十八卷終

本草綱目禽部目錄四十九卷

禽之三

林禽類一十七種

斑鳩

青鶴

即黃褐候

鳴鳩

即布穀

桑扈

即振翬雀

伯勞

鸚鵡

百舌

練鵲

鸚鵡

啄木鳥

慈鳥

烏鴉

鶻

山鶻

鶻嘲

杜鵑

鸚鵡

鳥厚附 秦音了

禽之四

山禽類一十一種附一種

鳳凰

孔雀

駝鳥

鷹

鵬

鵞 即真鷹



鴿 鴿  
鴿  
兎車鳥

鴿 鴿  
姑獲鳥  
諸鳥有毒

鴿  
治鳥  
木客独足附

本中譯記禽部第四十九卷

蘭山小野 芝生口板 門人 石田照 筆受

禽之三 林禽類 一十七種

班鳩 トシヨリコヒ シユスカケハト シユスハト ハナシハト

ワテケレハト スレキヤ

イカルカト訓スルハ非ニ播列ニ班鳩寺ト云寺アリイカ  
ルガ寺ト呼ブ又把谷アリイカルカハ班鳩ノ訓ニ非スワチ  
クレハトキシハトモノナケレハト云説アリ班鳩市中ニ  
ハ居ラス山中ニ居ル扶鳩ニ曰クナ儼リ大ニ羽色教種  
アリ全ク白トモノアリ 中 灰色ノモノアリ雜色ノ  
モノアリ喙咽下ニ白班文アリ教珠ヲ掛タル形ノ如シ



鳴声トシヨリコト鳴リテ所ニテハキレバトヲトシヨリ  
コト云然レモキレバトハ声乙ニメ濁リトシヨリコロヒ  
ト鳴リ斑鳩ハ声高ナ清ニクリ凡ソ鳩類皆木ニ巢  
ヲ結ラ鶴ハ臺塔ノ麓或ハ土庫寺ニ巢ヲ結フコト  
青鶴 ヤニバト アヲバト ヒラカバト

市中ニ居ラス山中ニ居形鶴ノ如ク大ニ全身碧色  
ニメ黒色ヲ著テ天子麴塵ノ御袍ヲヤニバト色ト  
云然レモ鳥ノ色ハ似サルモノニ此鳥腹白ク嘴赤ク  
胸微シ黄色ヲ著テ

鳩 鳩カツコトリ アニキトリ 仙列カツコトリ  
三四月頃深山ニ多居ル其声カツコウト鳴リ或は

音之即郭公ノ音ヲ声ニ出ス形モス。似タリ嘴ニ大  
抵似タレモ先曲ラス尾モモスニ似テ長シ全身赤翼  
ト頭尾ト共ニ黒シ脚赤ク花フア色疾シ農夫鶴  
ノ声ヲ聞テ紅豆西粟等ノ種子ヲトスト云

桑扈 イカルカサ名ニメコハシニメトリニメグナ仙鳥  
懸鳥 鋪ニタツク養フ又深山ニアリ其音同シテ市中  
ニ出ツモツノ大ノ如シ全身灰色首黒色ニメ中ヲ被  
ルカ如シ羽ノ先黒色ニメ赤褐色ヲ著テ尾黄赤褐  
色脚赤シ嘴巨ク曲レリ其色黄尾餘リ長カラ  
ス又穀ヲ食ス其月聲清シ月夜日ト鳴ニアリ  
故俗ニ三光鳥ト稱ス又秋月山中ニ月日星三光ト



鳴之ハ山鶴足後名ノ山鶴ニ詳名ノ山鶴 是之ニ光鳥ト  
之同名者物存條ハ山鶴ヨリ声高シ

伯勞

李時珍秋名註曰案西日桓惡鳥論云鷓鴣声噪マ  
故以名之感信乎而動殘害之鳥也此記ニ依リテ  
大和奉州ニハモスヲ以テシニ充以大抵可志記ナリ  
毛処時首大ニ眼四大ニ全身褐色腹白色ノ黒班  
アリ皆茶褐色嘴黒ク先曲リ尖リテ細長ニ至テ鋭  
ナリ足黒ニ此鳥ヲ補ルニハ同ノ此鳥ノ腹ヲ從ヒテ  
トナレテ之ヲ引クテ爾雅鷓鴣鷓音郭註俗呼為  
癡鳥今按スルニ是モスニ見虫草木略ニ詳ニ郭璞

老陽ノ老字ヲ口ク可断ニ鷓鴣字連テ鷓老ト  
ス穂ナラス鄭樵鷓字可断ニ老ヲ以テ下ニ屬シ老  
鷓トス是ニ集解載スルトコロノ九記皆明白ナリ  
如先李時珍ノ記ニ從テモスト見テ鷓ナルヘシ  
鷓鴣 未詳

夜半ノ頃鳴ク鳥ト見エタリ載脂ハヲレトリ頂ノ  
如キトサカケナリ

鷓鴣

鷓鴣 八八鳥 通名  
其産之鳥ニ似テ小全身黒色也翼ノ風キリノ下  
少シ白シ嘴脚黄色目赭赤也嘴ノ上鼻ノトコロハ  
タニリタルモノアリニ模恭有幘ト云モノ之ヲ指ニ能人



言ヲ成ス古史尖リ針ノ如シ此尖ヲ翦カ人言ヲ教レハ  
社言ト云ヘリ又翦法教法詳秘傳花鏡ナリ  
別ニ一種白色ノ鸚鵡アルヲ聞書ニ見エタリハ八鳥  
ノ字ヲ出ルモノハ鸚鵡ノ白點左右各一ツ聞ケハ長クノ  
八字ノ貌ノ如シ故ニ名ヲ扶名ノ咧咧鳥ハ八鳥ト同  
字ナリ

百舌 未詳

古訓ニモスト訓レ又ク口ツツミト訓ス皆非ニモズク口  
ツツミ皆諸馬ノ名ヲ字ア是ヨリノ充ツレモ的也  
ナラス又ウツヒスラ充ル設アレモ是亦非ニ形狀ハ大  
抵似レモ是的者ナラサルモノナリ

練鵲 未詳

種類多ク本條ハ集解ノ抱白練一人抱赤練練  
雀等アリ浙江通志見エタリ皆尾ノ色ニ依テ名  
命ス別ニ一種日本ニテレニヤクト呼マアリ尾短  
クモスヨリ小ナリ翼爪キリノ次ノ羽赤點アリ紅色嫩  
ハ黄色ニモ老ハ紅之俗キレニヤリ排レニヤリト云テ  
別ツ傳名未詳

鷓鴣

朝鮮ウツヒス カラウツヒス

京師近道ニ来ラス筑前ノチ口鳥ニ聞ニアリチ口  
鳥ハ朝鮮ニ近ク知レ目存ノウツヒストハ尖リモスノ  
大ヤノ如シ全身黄色背微ク青黄色又録テ等ナリ



腹下白尾ト羽ト黒モアリ鳴声大極日存大極  
日存ノウツヒス類ス

啄木鳥 キツ、キケラツ、キテラツ、キ

品類種、アリトモノ通例ノモノ之ヲコケラト云  
能テ脚有真黒色指前ヘニツ後ヘニツカケ直ニ樹上  
モ徒上ニ健ナル脚ナリ雀ヨリ大ク羽毛黒白相雜ル  
甚ニ春之又鸚ノ毛色ノ如キモノモアリ何レモ喙長ク  
黒シ舌頭針ノ如シ喙ニテ木ヲ啄キ虫ヲ食シ舌ニテ  
刺テ食フ又大ナルアリオホケラト云鶴ノ大ノ如シ  
白色ニ赤色ヲ帯フ顔紅色全身綠色ノ黒斑  
アリ嘴脚赤ク腹赤シ又此大ケラノ中ニ頭ノ際

紅ナルモノアリ之ヲ山キツ、キト云アテケラト云集竹山  
啄木ナリ

慈鳥 コラス サトコラス ハレホソ

市中ニ多居ルコラス之及哺ノ存アリ慈鳥  
ノ名アリ

鳥鴉 ハレフトカラス ヤニコラス ハレフト 新校正

山中ニ多居ル市中ニハ余リ来ラス別トヨリテ鳥鴉  
多クテ慈鳥少ク知アリ常脚ニテハ慈鳥多ク鳥  
雜ハ慈鳥ヨリ大ニ喙を肥大ニ食ラ貪リ喙ニテ  
抄テ食フ又別ニ一種ニヤニコラスト云アリ是ハ深山  
ナラテハ居ラス羽色全ク綠色腹背共ニ綠色咽ト



碧色大サ鶴ノ如シ嘴脚赤色コシ慈鳥集解所謂  
山鳥一名鶴ナルモノ是ニ大倭本竹ハ山鳥ヲ山カテ  
ストスルモノ未徳下山カラスハ乃チ鳥雅ニ  
カサ、キ カサ、吉歌 朝鮮カラス 鳥破麻カラス

唐カラス

筑前ニ多シ京師ニハ絶テナシ慈鳥ヨリ小ニ慈鳥  
ト交リ居ルニ慈鳥之ヲ害ト云ヘリ背羽深黒也凡  
キリノモト白キ羽アリ背ノアマオホクノ先クルリ白シ  
嘴脚深黒腹下白シ背黒ノ鳥ノ如シ腹白ノ鳥  
如シ故ニカラスサキノ名ヲ省略ノカサ、キト云ト云ヘリ  
美人ノ俗記ニ慈鳥噪ケハ凶アリ鶴噪ケハ吉ト云リ

ト云故ニ喜鶴ノ名アリ然レモ朱晦菴詩鶴噪未為  
吉鶴鳴豈是凶吉凶人自召不在鳥声中 群鶴

山鶴 未詳

和名山鶴ト云鳥アリ形大抵相近ト云未詳考  
へ得ズ古声月日星ト鳴ク故ニ俗ニ芝鳥ト  
云獻山ニモ居ル鳥ナリ

鶴 未詳

杜鶴 未ト、キストキハトリ 藏玉集 今モモナリ日ニ又鳥

馬クニニシヘコフルトリ 百華 シテノ夕チサ 藏玉 クツテトリ日ニ  
四月ノ頃鳴リ山中ニ多シ京師近道ニハ獻山安石  
寺ニタリシ市中ニハ斜リ来ラス 稀ニ空ヲ通リアリ



口ヨトリノ大カノ如シ若名色。又鷹ノ類。オホムシクヒト  
云鳥アリ足ト形色共ニ同レ一祝。杜鵑ノ雌ト云ヘ  
リ口中赤。杜鵑ハ口中赤シ啼テ血ヲ吐スト云ハ  
口中ノ赤ヲ以テ赤之聲。濁リテ餌ヲ食スル足ヲ  
日本ニテハ声ヲ聞クヲ喜ブ中。集ニテハ声ヲ聞ク  
嫌フ。是相違フ

鸚鵡 通名

和名ナレ故ニ和名ニナレ。其産ノ觀場ニ供ス。白鸚  
鵡ハ色白キモノ。和名注曰大者為鸚鵡。小者為鸚  
哥。此説是之。白鸚鵡ハ大ニシテ雌。如シ嘴巨ク下  
へ曲ル。色黒ク鷹ノ喙ヨリ短シ。鷹ノ喙ヨリ幅闊シ。鸚鵡

類。嫩鳥ハ雌雄ニ黒キモノ。雄ハ赤。雌ハ黄スル。ナ  
レ。昔ノ色上ニ立テ菊花ノ開ルル形ノ如ク。養ニモト白  
色ノ鳥ナレ。色立ワキハ赤。其ノ処アリ之ヲ決。若  
冠ト云。廣東新語。見ク。北方ハ。鳥ノ類。南方  
産ス。凡インコノ類。皆脚杜鵑ト曰。前趾ニツ後趾ニツ  
又。赤鸚鵡ハ。赤色ニ大。白鸚鵡ヨリ微ク小。鶴ヨリ微  
ク大ナリ。金線色ニ俗。有インコト云。至テ小ナルイン  
コト云。インコハ鸚鵡哥ノ異音ニ。雀解。又。色鸚鵡ト云  
モノインコノ下ニ品類多シ。二三十品。及フ皆色ヲ以テ  
別ツ。純中白鸚鵡。社ノ人言ヲ。古大ノ人言ノ形  
ノ如シ。然レモ。細クニ言フ。一社ハ。大明白。別テ難シ



**附錄** 秦告子 サルカ長崎 キウクワシ鳥 或ハ九條鳥喚九  
官ホノ字ヲ用ユ  
 俗記 キウクワシハ携来リシ人ノ名ト云黒色ノ鳥ニ  
 ツリミノ大ノ如シ黒色ノ体色ノ光リアリ鳥羽ノ如シ風  
 キリノモト白シ目ノ後ノ方ニ黄色ニノ耳ノ如キモノアリ  
 肉冠ノ如シ首ノ左右ニ各一ツ喙赤シ吻黄也足黄也  
 人言ヲ能クス細碎ノ語ヲナス老人ノ声ノ如シ高キ声  
 ニ非ス廣東新語曰以眼為別眼黃者金了白者  
 銀了黒者鉄了鉄了品最下 廣東老作秦結  
 了借音之

鳥鳳

大倭本特ニオナカトリト訓ス非ニ是ハ風鳥之大小

ニ種アリ本條ハ大ナルモノヲツリミ大クノ如シ全身  
 茶色尾ニ相懸ニアリ色同シ腹ノ色淡シ背ノ色深シ  
 ヲフヨリ詩尾ノ上ニ至テ別ニ長トモアリヨク腹ノトコロニテ  
 ハ短シ幅五分許長一分許漸ニヨク腹ニ至テハ短シ  
 正直ニツリ孔雀ノ尾ノ趣ノ如シ之ヲ同ケハ觀ルヘキモノニ  
 又其上尾ノトコロニ鉄線ノ如キモノニ條アリ下ニテ左右  
 別ニ赤ニテ合ス長一尺餘餘赤ト巨キ鉄線ノ如シ黒色  
 ニ見ユ又全身白色ノモノアリ稀ニ筑前城刈岩谷  
 辺ニ風鳥生シタルヲアリト云ヘリ

禽之四 山鳥類 一十三種 附一種

鳳凰



真形ヲ見ルモノナレ韓詩外傳云トコロノ数ケ條ヲ以テ  
画スレハ自注ニ鳳凰ノ形備ル日本ニテ鳳凰ヲ因スル  
音カニ自相ヲ画クモノハ誤ニ梧桐ヲ画スヘシ美人画ハ  
梧桐樹ヲ画ス

孔雀 通名

嶺南嶺南ノ鳥ニ近來日本ニテモ祛畜ニテ雛ヲ  
生ス雄ハ長クノ美髯ナル尾アリ雌ハ尾短シ毛色ハ  
白シテ孔雀ノ血色存物ト見花鏡内ニ血毛存  
見血封喉立能殺人物之可ト云々性妬ト云ハ誤  
ナリ故唐中朝詔曰性好來色喜与受人相狎  
弄人鼓琴或彈拍劍應節起舞舞以童衣飾

綺与戲或相与尾則与以童對舞以童不舞輒  
趁而啄蔽衣垢面者尤啄之惡之不類已之謂之性  
妬忌非之

駝鳥

ヒリヒトリ イレワリ コゾワル老名

老國ノ鳥ニ倭產ナレ先年老人江戸ニ献スルコトアリ至テ大馬之首鶴ノ如シ首ニ冠アリ雞冠ノ如ク高ソ出リ雞ハ冠刻缺アリ此鳥ハ刻缺ナレ頸長ク鶴ノ如シ頸ノ如シ毛祖ニ青皮見ル中身オヨリ来ル青皮ハ此鳥ノ皮ニ身体路馬ノ如ク大ニ尾ナレ脚房カラス雞脚ノ如シ色黒ク水カキナレ身ハ黒ク背ニ及左右ニ出タル毛羊ノ如ク長シ此モノハ炭火ノ



烈ニタルヲ食フ又石ヲ食ハシムレハ社食ト云石種  
ヲツケテ食セシメ須臾ニ引去テハ石泥ノ如ク  
ト云云社所化ス此卵ヲ稀ニ中其ヨリ来ス徑  
リ三寸許長サ六寸許徑解ニ其卵如癭ト是ニ  
又紅毛ノ禽圖ヲ見ルニ此鳥ノ品類種ニアリ

鷹

タカ

細目ノ説混テリ鷹類ヲ説クテ祖ニ秋名ニ角鷹ヲ  
載スレモ角鷹鳥ハクマクノノ鷹品類タタシ  
陽雜俎ニ詳ニ背ト腹ト白ク嘴ノウスリキチレ  
ククカト云又嘴白ク全身白ノ瓜至ルテハツキ  
リトサエタルヲ雪白ノタカト云奇品ニ秋名註曰

尔雅羽異云在北為鷹在南為鷂在北ヲ以テ分ツハ  
非ナリ二物自別ニ其説通雅見タリ又一云大  
為鷹小為鷂ト鷂ハハイタカハシタカコノリト云タ  
カノ雌ニ凡鷹類ハ雄小メ雌大ニ鳥ヲ捕ルニモ  
雌ノ方ナリト云雄ヲレヤリト云ト云ヘリ一説  
シヤウハ兄ニタイハ弟ナリト云

鷹

タカ

秋名ノ鷂鳥ハワレニ細目ニ混ス大和存ナリニ種分  
朝鮮ノ書鷹鳥鷂法ハク用鷹鳥ヲ奉テ鷹ヲ出サス  
者之ニ從フヘシワレハ鷹鳥ヨリ至テ大ニ黒ト白  
トノ班入アリ大小二種アリ此尾ヲ前羽トスルニ



得才一トス矢ニ用ルニ真羽ト云ニ玄尾ノ班ヨリテ  
玄名ヲ命ス前後白ノ中ニ黒班アルヲ中ク口ト云  
テ上品トス稀ニ班アリテ正中ノ白ヲキリフト云  
又中白ト云ニ玄ニ次ニ羽薄クノ黒キト口トノ  
キヲウスヘウト云テ又玄次ニ許

鶺鴒

秋名註楊羅淵ハ鶺鴒ノ別名ニ又大トリハ羽十ニ枚  
アルヲ云小トリハ玄ヨリ以下ヲ云  
ニヤコニシヤコ詳林ニヤコ江分ウヲダカ  
形鶺鴒ノ如シ上ヲ死フ鳴声ニ似タリ嶺山ニタシ赤湖  
上ニヒクク水ノ上ノ集ラ取レモ水中ニ入ルニ往ハス  
空ヲ死廻リテ己カ景ニテ集ラ遂ニ水面ニ浮ラテ

鳩

捕フ目ノ往ニリモノニ許巖窟ノ間トトニ集ラタク  
貯至クニ是ヲニヤコノスレト云テ村民取リ食フ  
ト云ヘリ  
トロトシヒ  
秋名註及雀解ニ混メ祀ノ也鳥鶺鴒ノ二名ハ存條  
ナリ隼ハハヤフサ鶺鴒ハイタカ雀鷹ハス、メタカ  
各ニ別ニ

鳩

雛ヨリ玄白ハ能訓ル、状鷹ノ如シ嘴短ク幅廣シ  
白眼ノ大ニ首縮ノ如ク回シ其母リテ亦縮ノ如シ  
許屋樹間ニ居ル夜ハ噪キ死フ氣ヲ取リ食フ屋

コノハスクニ、ツク本兒日本記ヨツスニカ



鴉

眼物ノ見ヘス

フツロウ フツロウ 胸ハ作 フルツク行候 フリツキ 諸列  
カホコトリ 歌書 トリノカラゴコロ

鴉鴉 似テ耳ナシ 夜人家屋上ニ鳴リ人ノ嫌フ鳥  
ナリ屋上ニ来リ鳴ケハ 名家ニ 禱アリト云フ 和傳  
ニニ同語ナリ 鳴声 糊スリヲケト云カ 如シ又列  
ニニフツロウト云アリ 田舎メニニフツロウ云 羽 赭色ニメ  
常 斑點アリ 茶家者流ニ 羽 筆ニ 造リテ 書ク 又  
シロフツロウアリ 畧メシロフツト云 且ハ 松前 蝦夷  
ノ 産ニ 羽 白クメ 常 斑點アリ 揚弓ノ 矢ニ 用ユ 皆 品  
類ノ 別ニ 詳 名 ナシ

鴉

和産ナシ 毒鳥之人ヲ毒ス 南寧府志曰 秋冬中  
脱羽人以銀瓜拾取著銀瓶中 否則手爛墮以之  
瀝酒飲人即死 所謂鴉酒 今以鶴頂紅 七非之 奉  
經逢原曰 与鶴頂之毒 多矣

姑獲鳥

ウブメドリ ウブメ

形状未詳 養作迎ニ 多ク 居ルト云ヘリ 鳴声 少兒ノ  
声ノ如シ 日本ニテモ 少兒ノ 衣服ヲ 夜 露スルヲ  
禁スルハ 此 集 解ニ 記クトコロノ 如クナルヲ 以テノ 故ニ

治鳥

未詳

山領 南ノ 産ニ 羅浮山ニ 賢人 往リ 付ハ 此鳥 迎ニ 出



ト云綱目云トコロノ如ク七色ニテ其官ヲ定ムト云ヘ  
リ廣東新語ニ詳ナリ

獨足鳥

未詳

鬼車鳥

未詳

諸鳥有毒

本草譯說四十九卷終



